

中臣朝臣宅守と、狭野弟上娘子との贈答歌

三七二三番

あしひきの 山路越えむと する君を 心に持  
ちて 安けくもなし

三七二四番

君が行く 道の長手を 繰り置ね 焼き滅ぼさむ  
天の火もがも

三七二五番

我が背子し けだし罷らば 白たへの 袖を振ら  
さね 見つつ偲はむ

三七二六番

このころは 恋ひつつもあらむ 玉くしげ 明け  
てをちより すべなかるべし